活用していますか? LINK-Jの会員サービス

LINK-Jは特別会員の皆様のビジネスをご支援するため、さまざまなサービスをご提供しています。
今回は、LINK-J公式HP内「人と情報の交流掲示板」、「LINK-BioBAY TOKYO」のパートナー企業募集についてご紹介します。

01 LINK-J 公式HP「人と情報の交流掲示板」に会員企業のプレスリリース掲載中 LINK-Jのネットワークを通じて広く情報発信が可能に

LINK-J公式ウェブサイト内にある「人と情報の交流掲示板」では、法人会員様から発信されるプレスリリースを掲載しています。会員様ご自身にて専用の投稿システムに情報をご入力いただくことでご利用が可能です。入力いただいた情報は事務局で内容を確認後、公開いたします。公開されたプレスリリースはLINK-Jが配信するメールマガジンでもご紹介しており、ライフサイエンス領域に関わる様々なステークホルダーにお送りしているため、LINK-Jのネットワークを通じて広く情報を発信することができます。
利用企業からは、本サイトへの掲載が「次のビジネスにつながった」「リアクションがよく問い合わせをいただいた」等、好評の声を多数いただいております。ぜひ、情報発信の強化にお役立てください。

- 対象会員:特別会員A・B
- サービス内容:会員企業が発信するプレスリリースを「人と情報の交流掲示板」に掲載可能(イベント告知のプレスリリースは対象外)
- サービス利用方法:会員ページ内専用フォームよりご入力

パートナー企業募集

02 LINK-BioBAY TOKYOクラスターに参画しませんか シーズソースへのアプローチやコミュニティ限定イベントを優先的にご案内

LINK-BIOBAY TOKYO

LINK-Jは、グローバルで豊富なスタートアップ育成実績を有する「BioLabs」、およびラボ・オフィスを軸とした事業を展開する「三井不動産」と協業し、新たなスタートアップ支援プログラム「LINK-BioBAY TOKYO」を開始しています。本プログラムの取組みにご協力いただけるパートナー企業を募集しています。ご参画いただいた企業には、シーズソースへの早期アプローチや、LINK-BioBAY TOKYOコミュニティへの参加、限定イベントおよび情報発信の優先案内など、スタートアップとの接点を深める多彩な機会をご提供します。現在、複数の企業に参画いただいております。ご関心がある企業様は、ぜひお気軽にLINK-Jまでお問い合わせください。

詳細はこちらのQRコードより
ご確認いただけます

- 対象会員:特別会員A・B
- 募集内容:新たなスタートアップ支援プログラム「LINK-BioBAY TOKYO」に参画いただけるパートナー企業を募集

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-3-9 日本橋アイティビル2階
TEL 03-3241-4911 HP https://www.link-j.org/ FB https://www.facebook.com/link0324/

株式会社ブラップジャパン
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-2 ミッドタウン・イースト8階
TEL 03-4580-9107

連載コラム MIYAMAN'S COLUMN

ここが不思議だ、我が国のバイオベンチャー市場(12)
「上場維持基準の厳格化が招く“成長の逆風”」

東京証券取引所が今年6月を目処に、ベンチャー企業の上場基準改正に動いています。2025年4月22日に市場改革に向けた有識者会議を開催し、「上場後5年で時価総額100億円」が可能である企業がグロースへの上場維持を許されるという新基準案が提示されました。今後、パブリックコメントを経て、正式な上場基準となる見込みです。

驚くべきことに現在上場しているバイオ・ベンチャー企業45社を新基準案で評価すると、6割以上のバイオ・ベンチャー企業は、本来なら上場維持を許されないという結果になりました。他業種では7割も新基準を満たさないので、バイオはまだましという意見もあります。しかし、バイオも含むベンチャー企業の上場維持のハードルが上がったことは間違いありません。今後、新上場維持基準が適用されるようになれば、上場後の成長に対する評価も厳しくなることは避けられないでしょう。

東証がグロース市場を改革したいという気持ちはよく分かります。本来、東証グロース市場は成長性の高い企業の資金調達の場でありました。しかし、現状は小粒株が多いため、デイトレーダーの遊び場と化してしまっています。少なくとも時価総額100億円から300億円の企業でなくては、潤沢な資金を長期に投入しうる機関投資家の対象にならないためです。流通株式数が少なく、まとまった株式を購入することも難しく、しかも大量購入しようとするとそれだけで株価が高騰してしまい、投資利益を損ないます。東京証券取引所の機関投資家を対象にしたアンケートでも、機関投資家から時価総額100億円以上の企業ではないと投資できないという悲鳴が聞こえてきます。できれば300億円から500億円というのが本音です。欧米では1000億円以上が機関投資家の投資対象となっています。ずいぶん昔ですが、米Genentech社の創始者であるBob Swanson社長(当時)が来日した時、「やっと時価総額10億ドルに達した。これで機関投資家の資金が入る」と喜んでいた記憶が蘇ってきました。

しかしそれでは、上場時見込み時価総額まで企業価値を膨らますために、バイオ・ベンチャーに出資される資金源は何処にあるのか? その手当も考え、上場維持基準を考えなくては、東京証券取引所グロースに上場する企業が減少、あるいは十分体力をつけたバイオ・ベンチャーが、東証より上場審査が面倒臭くない米国の新興市場NASDAQに流出する可能性もあるのです。証券市場の都合だけを優先すると、やがてバイオ・ベンチャー創出の井戸が枯れるリスクを考えなくてはなりません。ベンチャー振興のためには部分最適よりも我が国の金融市場の全体最適が必要です。これこそ政府の役割なのです。

宮田 満 氏

東京大学理学系大学院植物学修士課程修了後、1979年に日本経済新聞社入社。日経メディカル編集部を経て、日経バイオテク創刊に携わる。1985年に日経バイオテク編集長に就任し、2015年に株式会社宮田総研を設立、新Mmの憂鬱などメディア活動を開始。2017年、株式会社ヘルスケアイノベーションを設立、2020年6月よりバイオ・先端医療関連のベンチャー企業に投資を開始した。厚生労働省厚生科学審議会、文部科学省科学技術・学術審議会、生物系特定産業技術研究支援センターなど、様々な公的活動に従事。

LINK-J NEWS LETTER

LINK-Jと“LINK”する
情報のプラットフォーム

LINK-J
Life Science Innovation Network Japan

vol 29
July 2025

Pick up! LINK-J's Events

日本の大手製薬企業の研究開発戦略を担うキーパーソンが集結!「LINK-J Conference -R&D×Investment-2025」開催

活用していますか? LINK-Jの会員サービス

会員企業のプレスリリース掲載中

パートナー企業募集 LINK-BioBAY TOKYOクラスター

LINK-J Conference 2025 ～R&D× Investment～

昨年、参加者から多くの反響を得た、ライフサイエンス分野における研究開発と投資の連携を主題とした LINK-Jの新たな大型カンファレンス「LINK-J Conference -R&D×Investment-」の第2回となるシンポジウムが、5月9日（金）、10日（土）の2日間にかけて開催されました。初日（第1部）は、製薬企業および国内外のベンチャーキャピタル（VC）関係者が一堂に会し、非公開形式によるラウンドテーブルディスカッションを通じて、国内外の投資家それぞれの視点から、日本の創薬エコシステムに関する意見交換が行われました。2日目（第2部）には一般公開のカンファレンスとして、製薬企業各社の開発戦略や、海外投資家との対話セッションを通じ、日本発のイノベーション創出に向けた提案内容が共有されました。

第1部 ネットワーキングランチョン＋ラウンドテーブルディスカッション　2025年5月9日

国内製薬企業から7名、国内VC5名、海外VC6名の代表者に参加いただき、下記のテーマでディスカッションを行いました。

- 国内スタートアップ企業の育成や海外展開支援など
- 日本の創薬力強化
- 日本発の注目イノベーション

日本の製薬企業が積極的にスタートアップを支援し、国際的な連携を深めることが、エコシステム全体の成長に繋がるとの期待が高まりました。

第１部のスピーカー 一覧

国内製薬企業

後藤 正英	アステラス製薬株式会社　オープンイノベーションマネジメント　ヘッド
飯倉 仁	中外製薬株式会社　取締役　上席執行役員
和田 悌司	第一三共株式会社　研究開発本部 研究統括部 研究イノベーション企画部長
大和 隆志	エーザイ株式会社　DHBL エクスターナルイノベーション担当 上席執行役員
山田 和人	参天製薬株式会社　製品研究統括部長
志水 勇夫	住友ファーマ株式会社 執行役員　R&D 本部副本部長（創薬研究）

国内 VC

宇佐美 篤	株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ（UTEC）取締役 パートナー
稲葉 太郎	RDiscovery 株式会社 代表取締役
高井 弘基	グローバル・ブレイン株式会社 Investment Group Director
Ken Horne	AN Ventures 合同会社 パートナー
原田 泰	Fast Track Initiative パートナー

海外 VC

John Gutierrez	Ascenta Capital
Johannes Fruehauf	PhD, MD, Founder and President, BioLabs Global Inc.
Aiden Aceves	Vice President Insight Partners
Omar Khalil	Santé Ventures
PeiSze Ng	Leaps by Bayer, Director, Venture Investments
Christine Brennan	Vertex Ventures HC

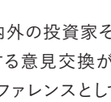
参加者の声

このようなメンバーが集うのは大変貴重な会であり、コメントも勉強になるものばかりであった。（クローズドならではの発言もあるかもしれないが）、スタートアップなど多くの方に届けたい内容であった。

参加者の声

2回目の参加です。素晴らしいメンバーの方々と意見を交わせてとても光栄でした。2会場でさらに密なコミュニケーションが取れたように思います。

イベントの舞台裏　LINK-J　林 幾雄



今年のLINK-J Conferenceの準備は昨年末から始まりました。2回目ということで、前回より良いものにしなければというプレッシャーが大きかったです。特に、登壇者と多様な聴講者の双方に満足していただけるよう、チームでプログラム内容の検討を重ねました。また、当日は直前まで準備がぎりぎりになったりと、大イベントならではの苦労もありました。1日目のラウンドテーブルディスカッションでは、製薬企業の研究責任者や国内外のVCが集まり、深い議論が行われました。また、2日目のFireside Chatでは、米国VCが日本市場やスタートアップについての洞察を共有し、非常に有益なセッションとなりました。参加者からは多くのポジティブなフィードバックをいただいたので、来年に向けてまたプレッシャーがかかりますね。

第2部 カンファレンス　2025年5月10日

2日目は、一般参加者・視聴者を交えての開催となり、3つのセッションとランチタイムには、AMED（日本医療研究開発機構）による特別プログラムも開催いたしました。
世界の投資状況、バイオファーマ業界の今、そして国内製薬企業のR&D戦略について、投資家、製薬企業、研究者の三者が対話し、創薬エコシステムの未来について多角的な議論が交わされました。

金融・起業・再生医療が描くイノベーションの未来

カンファレンスの冒頭では、LINK-J事務局長の高橋俊一より、「研究者、ベンチャーキャピタリスト、スタートアップ、企業が協業し、距離を縮めることがイノベーション創出の鍵である」との開会挨拶がありました。
続く基調講演1では、JPモルガン証券株式会社 日本ヘルスケア責任者 投資銀行本部 投資銀行部 事業法人グループの善積大祐氏が登壇し、「製薬・バイオテクノロジー業界の投資動向と今後の展望」に関する講演が行われました。基調講演2には、米国のスタートアップインキュベーターであるBioLabs Global Inc.の創設者、Johannes Fruehauf氏が登壇。米国ボストンを中心としたスタートアップ支援の成功事例を紹介し、コワーキングラボが、学術研究を社会実装へと導く「トランスレーショナル・エコシステム」の中核を担っていると述べました。
基調講演3には大阪大学の武部貴則教授が登壇し、iPS細胞やオルガノイドを用いた再生医療の最前線を紹介、疾患モデリングや創薬への応用が進んでいることを示しました。

モダリティからオープンイノベーションまで：製薬各社の挑戦

午後のセッションでは、日本を代表する製薬企業が登壇し、自社の研究開発戦略とイノベーション創出への取り組みを発信しました。

第一三共株式会社　和田悌司氏
ADCやmRNAなどのモダリティを活用したマルチモダリティ戦略を紹介

エーザイ株式会社 大和隆志氏
外部との戦略的アライアンスを通じた創薬事例を通して、PD-1抗体やAI創薬など、先進的な取り組みが進行中

アステラス製薬株式会社 後藤正英氏
オープンラボ運営やピッチイベントを通して、アカデミアやスタートアップの次世代創薬を支援

住友ファーマ株式会社 志水勇夫氏
iPS細胞や低分子を活用したがん・神経疾患領域への集中投資を紹介

武田薬品工業株式会社 梶井靖氏
湘南アイパークを中心としたオープンイノベーションの取り組みを紹介

中外製薬株式会社 飯倉仁氏
ロシュとの戦略的アライアンスを活かしつつ、自社研究開発力を強化。抗体エンジニアリング技術や中分子創薬など、独自の技術を駆使しグローバルに展開

参天製薬株式会社 山田和人氏
眼科領域に特化し、患者視点に立った製品開発を推進し、点眼剤の改良により、QOL向上を目指す

各企業のプレゼンテーションを通じて、日本発の創薬研究がいかに進化を続け、国際競争力を高めようとしているか具体的な方向性が浮かび上がりました。

創薬エコシステムの未来を語る：VCと製薬界の視点

Fireside Chat 1　VCが語る成功の鍵とエコシステムの課題

海外投資家が登壇し、投資成功の鍵として、「チームの質」「マイルストーン設計」「市場との整合性」を挙げました。ボストンやサンディエゴのような密なネットワークがイノベーションを加速させる一方、日本では偶発的な出会いや、人材の流動性が不足している点が課題として挙げられました。

Fireside Chat 2　グローバルVCが語る日本の可能性

国内外の投資家アクセラレーターが、日本の科学技術と人材の質を高く評価。文化的な障壁や技術移転の課題を乗り越えるためには、国際的な視点と柔軟なマインドセットが必要であると語られました。政府の支援や教育の重要性も強調されました。

Fireside Chat 3　創薬エコシステムの未来と人材流動性

製薬企業やVC、アカデミアの代表が登壇し、人材の流動性、失敗から学ぶ文化、オープンイノベーションの推進など、日本の創薬エコシステムを強化するための具体的な提言が示されました。特に、「守秘義務の壁」や「給与水準の課題」など、現場のリアルな声が共有されました。

ランチタイム特別プログラム　Sponsored by AMED

「創薬エコシステムの推進 ～AMED認定VCから製薬会社への期待～」を開催

AMED認定ベンチャーキャピタルの2社に、創薬ベンチャーへの投資事例や開発後期での製薬会社との協働に向けた連携への期待などについて講演いただきました。

イベントの舞台裏　LINK-J　宮田美樹

本カンファレンスは、国内大手製薬企業の"研究開発部門"のトップによるパイプラインや今後の展望をテーマにしたプレゼンテーションと、国内外投資家とのクロストークを主眼に構成しています。参加者は、各社の動向を一堂に聞けるだけでなく、新たな気づきを得て、登壇者と一体となってネットワークを築くという点で、大変ユニークな機会となっています。
半年間、チームから出たアイディアやコンテンツは、あまたの宝石のようで、まさにジュエリーを作り上げるような持久力・忍耐が必要でした。このカンファレンスに参加した全ての皆様に、まばゆいばかりのジュエリーが首元に輝いていたら感無量です。